

越中アート大賞 北日本新聞社長賞

「face」(平面) 山田 奨真

板に油彩とクレヨンで、動物の顔をデフォルメして構成したこの作品は、テクスチャーを感じさせる「絵を創り上げる力強さ」にあふれている。大賞に選定後、作者が12歳であることを知って驚き、愉快的気分になった。(総合審査員 長澤 忠徳)

20周年記念特別賞

「蜃気楼」(平面) 井村 明日香

迷いのない運筆で流れる筆脈が実に見事。潤渇の変化と粗密感で上部と下部をうまく纏め余白の美しさを醸し出している。大小の飛沫が効果的。

20周年記念特別賞

「That empty room」(立体) 寺井 まひろ

キルンワークで仕上げられたガラスの大作。ピンク色の板ガラスが同色のひもで括られ、繊細なバランスで構成されている。タイトルからも、空虚でありながら自由で軽やかな存在を希求する作者の思いが感じられる。

優秀賞 北日本新聞社賞

「Glass Tiramisu」(立体) 岩井田 健一

ガラスと他素材を融合させたユニークな作品。素材の魅力を発見・展開する姿勢に好感を持った。一見、霜柱や地層を写しとったように見えるが、時間や記憶を想像させる存在感ある作品で、我々の目を惹きつけた。素材の魅力に着目する作者の今後に期待したい。

優秀賞 富山県文化振興財団賞

「緋」(平面) 財目 尚弥

緋(あけ)の題名の通り背景に鮮やかな赤色を使い、不揃いな円で埋め尽くすように描かれている。中央のトカゲは、白・黒・灰色で緻密に描かれており強い存在感がある。この色彩の対比が画面内で上手く融合した秀逸な作品である。

優秀賞

「おらの街の鉄工所」(平面) 米田 英隆

古びた鉄工所の情景が見事に表現されています。油彩画の油彩らしさ、描き慣れた感性、北陸の空。電柱と家並みのバランスも素敵です。油彩画の魅力を強く感じることができる秀作だと思います。

優秀賞

「クジャクバト」(立体) 黒田 諒

愛らしいクジャクバトをモチーフにした作品。形状をシンプルにまとめることで、より印象が強く残った。風化を感じさせる表現が、時の重みとなって作品に重厚感を与えている。素朴な魅力と力強さを持つ良作。

優秀賞

「路傍の秋」(平面) 島倉 譲

見逃しがちな被写体がデジタル処理により、写真と思えない絵画的で独創性のある作品となっている。画面構成のバランスも良く、統一された色調に好感がもてる。

越中アート未来賞

「ハンノキ滝」(平面) 北川 裕琴

滝というシンプルながら難しい題材に真正面から挑んだ意欲作である。胡粉を何度も塗り重ねることで、滲みや偶然性を活かしながら水の流れを見事に表している。粗削りではあるが、真摯な表現に未来を感じた。

平 面

総評 今回の平面部門はバラエティ豊かで、とりわけ受賞作品は 20 周年にふさわしい粒揃いとなった。写真や書の作品にも絵画的な表現が見られ、ジャンルを超えた挑戦は興味深い。若者の意欲的なチャレンジと、ベテランの地に足が着いた力作のバランスも程よく、こうした多様性は富山のアート振興に大きな刺激を与え得るだろう。

奨励賞

「いのちはめぐりもりはうたう」	あまぐりこまる	「布上のワルツ」	伊勢威知郎
「ゆめまぼろし」	岩城 悠里	「ノスタルジー原始の海」	圓戸 智
「ぐるぐる」	金松 良恵	「静寂」	杉田 一彦
「SAKANA」	戸潤 房子	「時を示すもの」	永森 一則
「たまゆら (No3)」	野中 桂子	「凜凜と」	野中 桂子
「曲水」	野村 順子	「界2503」	伏黒由利子
「HANA ひらく」	宮本富美子	「花曇り」	村田和歌子
「頭足類の摩天楼」	Y U I G A		

佳作

「平安の宴」	有沢 晴美	「迷い蝶」	石井 由里
「ノスタルジー風の中」	圓戸 智	「いろり端」	岡田 武良
「赤の幻想」	金谷 興治	「鮎」	木戸 匠我
「道「黎明」」	黒田 学	「年輪の路」	高坂 妙子
「それぞれの色、それぞれの華」	五島 一郎	「和而不同」	小西 絹香
「p.5」	島 碧	「群游」	砂子 隆志
「結ぶ～髪をくくる～」	大吉田誠夫乃助	「ただそこに」	田中美津子
「「北国空」より」	田邊 竹綾	「月影の木蓮」	辻 壮秀
「矢の先」	堂口 光周	「昼下がり」	中田 千鶴
「残響」	長谷川桂子	「ミラクルダンス」	氷見 安正
「河内國平の言葉」	福嶋美智代	「コーナーデスク」	福田小夜子
「阿吽」	舟崎 聖汀	「Art 万歳そして感謝感謝」	堀井 三郎
「残花」	松田喜美江	「光とともに」	丸山 敦子
「キング」	味噌 町子	「冬暁」	宮本富美子
「やなせたかしの詩」	山本 晃士	「響」	綿屋 偵以

立 体

総評 硝子の作品が多数あり、硝子の富山を強く感じさせた。それ以外の分野の作品にも目を引く物が多かった。頼もしく喜ばしい。賞からもれた作品にも、実に惜しい物が多かった。若くて応募された作品に議論は続いた。早く脚光を浴びることがいいのか、努力の末に光を浴びるのが幸せか。結果は当然作品に準じられた。何度も挑戦を期待したい。

奨励賞

「Border」	新井 陽太	「human」	小畑 咲音
「Myopia」	嶋津 瑠奈	「Sense of belonging」	Jeung Minkyung
「ある街の風景」	竹内菜々子	「遠い海の音」	田中 絹子
「肌」	山田 実紀		

佳作

「流れの痕」	岩井田健一	「双頭の八咫鳥たち」	大坪 剛
「朽木」	岡本 茂樹	「3びきのくま」	グアリノアキ
「私とあなたの間で」	栗栖 諒	「過去・現在・そして…」	酒井 七海
「ゆれていた木が見たい」	田中 季菜	「輝く山塊」	牧野 収
「あまおとのにおい」	宮長 由紀	「廻るモノ」	山田 実紀